

○川又照雄副議長 次， 10 番深谷秀峰議員の発言を許します。

〔10 番 深谷秀峰議員 登壇〕

○10 番（深谷秀峰議員） 10 番深谷秀峰です。通告に従い質問をいたします。観光事業の振興について3項目，地域防災体制の強化について2項目です。

まず初めに，観光事業の振興についてお尋ねをいたします。

県内一の面積を誇る本市においては，市内各所にすばらしい観光資源が存在しております。阿武隈山系に連なる山々を初め，そこから流れ出る里川の清流などの豊かな自然資源は，四季折々に訪れる人の心にいやしのひとときを与えてくれるものです。

合併前よりそれぞれの地域では，その自然資源をもとにさまざまな工夫を凝らしながら各種観光事業の振興を図ってまいりました。しかし全国各地，そして茨城県においても年々観光地間の競争は激しくなる一方で，景気の低迷とともに旅行スタイルの多様化などの影響で観光を取り巻く状況は大変厳しいものと言えます。

そうした中，追い打ちをかけるように起こったのが東日本大震災，そして福島第一原発事故でした。特に観光面で大きな打撃となったのが放射能汚染による風評被害で，本市においても市内の各観光施設を初め，関連する多くが被害をこうむりました。事故から2年半以上たった現在でも完全復興には至らず，今後ますます観光面での振興には独自の創意工夫が必要とされるのではないのでしょうか。この点から以下の質問をいたします。

まず，観光イベント・祭りの振興策，各イベントの来場者数の状況と今後の課題についてであります。観光客の誘致を促進する点では，市内で行われる各種イベントや祭りなどが大きな要素になります。そこで震災後大きく落ち込んだ観光面での入り込み客数，一体今年はどの程度まで回復しているのか。今年市内で行われた主なイベントや祭りの来場者数はどのくらいだったのかをお聞きいたします。また，それらの数字の分析から今後の課題をどのように捉えているのかお伺いいたします。

次，市民団体が行うイベントへの支援策についてです。市内には市民団体が独自に工夫を凝らしながら行っているイベントや祭りがたくさんあります。古くからの伝統的なものや新しく取り組まれたものなどさまざまですが，それらの中には観光客の誘致に大きく貢献しているものもあります。

例えば，今年10回目を数えた町屋町の「河内の文化遺産を守る会」が行っている「行灯の赤レンガと銀杏まつり」や，里美地区折橋町の「折橋芸（能・農）部」の「カブトムシの里づくり」など，それぞれの地域の歴史遺産や自然資源をうまく利用した取り組みと言えるのではないのでしょうか。

現在，市が行っている市民提案型まちづくり事業やエコミュージアム活動の中には，地域の観光資源につながる取り組みもあるかと思いますが，今後こうした市民団体をどのように支援していくのかお伺いいたします。

次に，観光ルートの設定と情報発信について。

ルートの設定拡大と取り組みの状況についてお尋ねをいたします。茨城県は北関東自動車道の

開通や茨城空港の開港など広域交通網の整備が進み、新たな観光客確保のチャンスが訪れていると言われております。しかし観光地としての知名度の低さやブランドイメージの脆弱さにより、産業としての観光振興が十分図られていないのが現状であると言えます。この点は本市においても例外ではなく、休日の交通量は増えても他の目的地への単なる通過点となっている気がしてなりません。

そこで、現在旅行商品として運行されている本市が含まれた主な観光ルートはどのようなものがあるのか、そしてそれらをどう評価しているのかをお伺いいたします。また、観光スタイルの変化や多様化を踏まえ、市内を巡る観光ルートの設定については、年齢層や人数、各種目的などに十分応えられるようなきめ細かなプラン設定が望まれますが、今後どのように考えていくのかお聞きいたします。

次に、プラトーさとみの振興策であります。来場者数の状況と今後の振興策についてお尋ねをいたします。

プラトーさとみは、旧里美村時代の平成4年8月に、里美カントリー牧場の拠点としてオープンいたしました。600ヘクタールの敷地面積を誇る広大な里美牧場の高台に立ち、遠くは那須連峰から富士山までもが眺望できる雄大な自然を目玉として、これまで多くの観光客を集めてまいりました。しかし、一昨年の中日本大震災による施設への被害、そして福島第一原発による放射能汚染により長期の休館を余儀なくされました。昨年からの大規模な除染作業が終了し、本館の修繕も済んだ本年7月に営業を再開したわけですが、これまでの来場者数はどれぐらいになっているのか、震災前と比較してどの程度回復しているのか、そして原因をどのように分析しているのかお尋ねをいたします。

また、今後の振興策としては、いかにして団体客を呼び込むかが重要になってくると思います。以前は近隣の小中学校や子ども会などの宿泊体験学習で多くの利用があったものの、類似の施設の競合もあり、現在では大半が家族客のように見受けられます。

そこで、提案したい点が2つあります。1つは高齢者向けのグラウンド・ゴルフや若者層へのフットサルができる場所を提供することで団体客を呼び込むことはできないものか。プラトーさとみの近くにもとの青雲荘跡地があり面積的には十分で、一考の余地があるのではないかと考えます。もう一つは、大学等の各種サークルへの働きかけです。周りを気にせず存分に音が出せる立地条件からすれば、バンドやコーラス、太鼓など音楽関係の団体、雄大な自然やすばらしい風景を有する点から言えば、絵画や写真など美術関係の団体に合宿という形で利用してもらえないだろうかということです。いずれにしても十分実行可能なことだと思いますが、今後どのように考えていくのかお尋ねをいたします。

次に、地域防災体制の強化について。

自主防災組織の整備についてお尋ねをいたします。組織の結成状況と今後の課題であります。本市では、平成10年より自主防災組織の結成を推進し、ようやく平成23年度に124全町会で組織が結成されました。この間、未曾有の被害をもたらした東日本大震災が起これり、市民の防災意識も否応なく高まったと言えます。

あの大震災時の教訓や国・県の防災計画の修正をもとに、本市においても地域防砂計画の見直しが行われました。その中で自主防災組織は大変重要な役割を担うこととなりますが、今後災害発生時により効果的、効率的に機能させるためには、現在の各種組織構成やリーダー養成、資機材整備などでどのような改善の必要があると思われるのかお伺いいたします。また、防災訓練の現状についてもお尋ねをいたします。

最後に、消防団の組織充実についてお尋ねをいたします。

まず、団員数の確保の状況と対策であります。地方に住む若者の減少は災害時、防災活動に従事する消防団員の減少に拍車をかけており、その傾向は年々激しくなっているように思われてなりません。本市も例外ではなく、団員の欠員や高齢化が進んできています。そこで、現在の本市の消防団員数の状況はどのようになっているのか、国・県の状況とあわせてお聞きいたします。また、今後の団員確保の対策をどのように考えていくのかお尋ねをいたします。

次、機能別団員の確保の状況と対策であります。今年度より新たに機能別団員の制度を設け、災害活動に限定した消防団員OBの導入を図っておりますが、現在までどのぐらいの入団者があったのか、そして募集の仕方など、今後の課題をどのように捉えているのかお尋ねをいたします。

以上、ご答弁をお願いいたします。

○川又照雄副議長 答弁を求めます。産業部長。

〔榎村浩治産業部長 登壇〕

○榎村浩治産業部長 観光イベント、祭りの振興策についてのご質問にお答えをいたします。

初めに、各イベントの来場者数の状況と今後の来場者数の増などをどのように考えているのかというご質問にお答えをいたします。

今年度観光物産協会が計画した祭り、イベントは11事業ございます。既に9事業を実施しておりますが、「竜神峡鯉のぼりまつり」が3万3,000人、「常陸秋そばフェスティバル」が3万8,000人、そして「さとみ秋の味覚祭」いわゆる「かかし祭り」が3万6,000人でございます。そして「常陸太田秋まつり」が2万8,000人でございます。震災の影響により激減してはりましたが、少しずつ回復の傾向にはありますけれども、まだ震災前には回復していない状況でございます。

また、西山荘の入り込み客数、竜神大吊橋の渡橋者数でございますが、11月までの状況ですけれども、西山荘の入り込み客数は震災前と比較しまして約54%どまりでございます。そして竜神大吊橋の渡橋者におきましても75%にとどまっている状況です。

今後の課題でございますが、来場者の回復もさることながら、祭り、イベントにご来場いただきました方々による経済効果がどれくらいあったかということを検証していく必要があると考えております。市内で商工業を営んでおります市商工会や観光物産協会の会員さんからも今後情報を収集し、さらに検証していく必要があると考えております。

続きまして、市民団体が行っておりますイベントの支援策についてでございますが、本市におきましては、現在多くの地域や市民団体がそれぞれの特色を生かしたり伝統を重んじながら、さまざまなイベント等に取り組んでいただいております。年々その数も増えてきているところでござい

ます。

各地の夏祭りなどはその代表でありまして、地域に伝わります伝統的なならわしを復活してお祭りを実施したり、あるいはまた、地域の資源である文化財や建造物、農産物などを生かしたイベント、さらには、駅前広場や「かなさ笑楽校」など、新しい施設を活用したイベント等が地域愛やコミュニティの力で運営されておりますことは大変力強い限りでございます。

これらのほか、市民協働推進課が実施しております市民提案型事業を活用した地域の皆様によるイベントや文化課が進めておりますエコミュージアム活動から派生したイベント等においても、地域の皆様の独自の方法で地域ににぎわいや活性化を生み出しております。

これらの活動が生み出す活力はまさに地域や団体の自立した運営であるからこそその活力であると認識しているところでございます。こうした活力をいつまでも継続していただけますよう側面から応援してまいりたいと考えているところでございます。

続きまして、観光ルートの設定と情報発信についてのご質問にお答えをいたします。

観光と言いますと、これまでには大型観光バスによる観光施設を周遊することが主でありましたが、最近ではマイカーによる個人旅行にシフトしている状況にあると考えております。

竜神大吊橋への来場者数について見てみますと、本年の4月から11月までの渡橋者数が、昨年同時期と比較いたしまして104%の増となっておりますけれども、観光バスの台数は昨年と比べて90%どまりになっていることから、本市への観光客についてもマイカー移動に変わってきていることがうかがえるわけでございます。

このような状況から、観光ルート設定につきましては、滞在型観光、周遊型観光など目的別の観光ルートを設定いたしまして、ターゲットを絞った誘客等に取り組んでいるところでございます。昨年度から新たに15の観光ルートを設定し、約1,000人の方々にツアーに参加いただきました。本年におきましても新規の観光ルートを設定し、ツアー参加による誘客を図っているところでございます。

また、今年度新たに連携協定を予定している筑波銀行やJTB関東の持つネットワークを活用した本市魅力の情報発信に取り組んでまいります。

続きまして、プラトーさとみの振興策についての中での来場者数の状況と今後の振興策についてのご質問にお答えをいたします。

プラトーさとみは、東日本大震災以後、2年4カ月を経まして本年7月20日に営業を再開いたしました。震災前の平成22年は9,200人余りの方に訪れていただきましたが、本年8月から11月までの来場者は3,779人と約6割減の状況でございます。

この原因といたしましては、やはり2年間のブランクと、そして放射能汚染による除染区域であるという風評被害が大変大きい要因でございました。しかしこのような状況でも月約1,000人の方にご来場いただきましたことは、今後期待できる要素がたくさんあると考えますので、さらにPRを強化し誘客に努めてまいります。

今後の振興策についてでございますが、現在の利用層は先ほどありましたように、家族が中心であり大人数の誘客は難しいことから、団体の誘客にも力を入れる必要があると痛感しております。

す。ご提案のごさいました高齢者向けのグラウンド・ゴルフや、若者層へのフットサルなどは大変有望であると認識いたしておりますが、青雲荘跡地は現在茨城県酪農業協同組合共同模範牧場の採草地として貸し付けをしている場所でございますので、今後関係機関と協議をしてみたいと考えております。

さらに、本市は複数の大学と連携協定も結んでおり友好的な関係を築いていることから、音楽や美術サークルへの働きかけや各種合宿の誘致も進めて交流人口の拡大に努めてまいります。また、この辺牧場一帯は自然豊かな場所であることから、ハード面の整備に頼ることなく自然体験プログラム等のソフト事業による魅力を創出しながら、さらに活性化を図ってまいります。

以上でございます。

○川又照雄副議長 総務部長兼政策企画部長。

〔佐藤啓総務部長兼政策企画部長 登壇〕

○佐藤啓総務部長兼政策企画部長 地域防災体制の強化についての中の自主防災組織の整備についてのご質問にお答えいたします。

自主防災組織の結成状況と今後の課題ということでございますけれども、議員のご発言にありましたように、災害に対しては、地域での自主防災組織の機能が十分に発揮されることが重要でありまして、平成24年度から防災資機材の拡充などのための補助金の交付や地域での防災リーダー育成のための研修事業などを実施しているところでございまして、これらについては引き続き実施してまいりたいと考えております。

今後の課題でございますけれども、自主防災組織の活動には町会ごとにはばらつきもあることから、全体的な底上げを図ってまいる必要があります。このためには、各組織のリーダーとなる人材の育成が特に重要であると考えておりますので、県主催の茨城防災大学での防災士資格取得促進を目的とした助成を来年度検討しているところでございます。

また、地域により関係する災害の種類が異なることから、それぞれの地域の実情に合わせたマニュアルの整備が必要となります。今後各組織の活動マニュアルや避難所運営マニュアルなどの整備、見直しの参考となる情報、さらに、当市におきましては土砂災害の危険箇所が多くあることから、土砂災害警戒区域の指定箇所の情報などについて提供するとともにマニュアル整備等の支援を行ってまいりたいと考えております。

また、自主防災組織の訓練の実施状況につきましては、毎年全地区ではございませんが、地区単位を基本にそれぞれの地区、または町会において計画的に実施している状況でございます。訓練実施に当たりましては、日程を調整しながら消防本部及び地域の消防分団が参加し、実技指導などにおいて協力しております。また、地区単位での実施に当たりましては、打ち合わせ段階から総務課が参加し、防災無線を活用した避難誘導訓練もあわせて実施しているところでございます。

以上です。

○川又照雄副議長 消防長。

〔福地壽之消防長 登壇〕

○福地壽之消防長 消防団の組織充実についてのご質問にお答えいたします。

初めに、消防団員数の確保の現状と対策についてでございますが、消防団員数につきましては、直近のデータでは、全国で定数93万7,677人に対し87万6,841人、93.5%となっております。茨城県では、定数2万6,446人に対し2万4,244人、91.7%でございます。当市におきましては、987人に対し897人、90.8%となっております。

欠員の主な理由につきましては、団員のサラリーマン化による市外通勤や市外への転出、高齢化、過疎化による若者世代が減少しているなどのことが考えられます。また、当市の消防団員の定数につきましては、人口を基準としている地方交付税の費用算定基礎の基準団体規模の団員数と比較しますと、県内でも最も広い面積で多くの山間地域を管轄する状況等を踏まえ、3倍強の団員を配置し、地域の安心・安全を守るために活動していただいております。

団員確保の活動につきましては、全国では財団法人日本消防協会による芸能人、スポーツ界等の著名人のボランティアによる消防応援団を結成し、消防団関係の行事に参加したり、マスコミ等を利用して消防団員を応援し、一般の方々に対する消防団のPR活動を行っております。

また、当市といたしましても、スーパー、コンビニ等に団員募集のポスターを掲示していただいたり、市報等に消防団の活動や団員募集の記事を掲載しPRするとともに、消防団員が地域の自主防災訓練へ参加し自ら指導したり、高齢者世帯の防火指導訪問の実施や地区のお祭り等の安全警備に協力するなど積極的に市民と接する機会を増やし、理解協力を得られるよう努力し、団員確保に努めているところでございます。

続きまして、機能別消防団員の確保の現状と対策でございますが、今年度4月1日から機能別消防団の運用を開始しておりまして、欠員の多い北部地区を中心に20名程度の入団を目標としておりましたが、12月1日現在、金砂郷地区、水府地区でそれぞれ1名、里美地区で4名、計6名の入団の状況となっております。

また、機能別消防団員の入団につきましては、分団長会議等をお願いをしておりますが、それぞれの分団の運営、体制状況等がありまして、現在、分団長が中心となり、地域在住のOBに対し、入団促進に努めているところでございます。

○川又照雄副議長 深谷議員。

〔10番 深谷秀峰議員 質問者席へ〕

○10番（深谷秀峰議員） 再質問をいたします。

まず、観光事業の振興の中で、今後の考えられる情報発信という点で質問させていただきます。

皆様、今朝の新聞各紙で報じられている県のイメージアップ作戦で使われたスローガン、非常にかっこいい「なめんなよいばらき県」。県議会では批判の声も上がっているということですが、そのせいで多くのマスコミに取り上げられ、広告宣伝費に換算した場合の効果は11億円にも上るとされています。県のホームページアクセス数も1週間で5.6倍、しかも県外からのアクセスは12倍にもなっているということです。たった1つのキャッチコピーでこういう効果が得られるわけですから、本市でも何か考えるべきだと思うんですがどうでしょう。

○川又照雄副議長 答弁を願います。産業部長。

○**樫村浩治産業部長** お答えいたします。確かに、今朝の新聞を見てみますと大変効果があったと載っておりまして、茨城県の事例なども見ますと有効なのかなというところで、本市におきましても今後検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○**川又照雄副議長** 深谷議員。

○**10番（深谷秀峰議員）** 蛇足ですが、もし考える場合は、議会から簡単に賛同を得られるコピーではだめですね。やはり議会でひと悶着ぐらいあるぐらいのコピーのほうがそれを含めて効果が出るということです。プロが考えたこういうコピーは、我々素人では考えられないと思うんです。ですから、市でもやはりいろいろな面でプロの視点をぜひ入れてもらいたいと要望いたします。

もう一つ、ついでもありますが、最近マスコミでは、毎日のように登場している船橋市非公認の「ふなっしー」君、その他にもいろいろマスコットキャラクターが作られております。茨城県でも近隣市町村でもつくっております。本市ではどうなんでしょう。そういう考えはこれまで出ませんでしたか。

○**川又照雄副議長** 答弁願います。産業部長。

○**樫村浩治産業部長** お答えいたします。これまでも、いわゆる「ゆるキャラ」と言われるぬいぐるみキャラクターにつきましては、職員からも提案がありまして検討してきたわけですが、どういうふうに進めていったらいいかというところまでなかなかたどりつかずに今日に至っております。

これも先ほどの茨城の「なめんなよいばらき県」と、けんか言葉ではありますけれども、情報発信、それからPR活動に非常に有効な方法であると考えておりますので、これもあわせて検討してまいりたいと思います。

以上でございます。

○**川又照雄副議長** 深谷議員。

○**10番（深谷秀峰議員）** それでは、次にプラトーさとみの振興策で質問をさせていただきます。

今回答弁でありましたように、本館のみの営業再開ということでもあります。それで月1,000人の来場者を得たということは、ある面評価されるべきことかと思えます。しかし、プラトーさとみ周辺の一体の附帯施設を含めて全体で里美カントリー牧場であります。今後大型キャビンを始め、その他の施設を一刻も早く修繕し、本来の姿にしなければならないと思いますが、今後どのように考えていくのかお聞きいたします。

○**川又照雄副議長** 産業部長。

○**樫村浩治産業部長** お答えいたします。プラトーさとみの周辺の附帯施設の現況でございます。ただいま議員ご発言のありましたように、本館だけ再開いたしましたが、さきの震災、あわせて老朽化により、小型キャビンなど大変老朽化が著しく修繕不可能なものについては、残念ながら解体せざるを得ないと思っております。

また、ただいまご発言いただきました中の大型キャビンは、15名程度利用できる建物でございます。これにつきましては、躯体そのものには異常がないのではないかと。ただ残念ながら、一部外装、内装の修繕をしなければなりませんので、そういったことも踏まえて今後営業再開に向けて進めてまいりたいと考えております。

それから、関係するその他の施設でございますが、「アストロさとみ」——天体望遠鏡につきましても現在調査をしておりますので、それが今後使用可能になるのかどうか、調査結果を得てから判断してまいりたいと考えております。

それから、すべり台もございますけれども、これは残念ながら老朽化が大変進み、遊具等の安全基準も一部改正されておりますことから、今後よく検討してまいりたいと考えております。

施設を取り巻く全体の状況については以上でございます。

○川又照雄副議長 深谷議員。

○10番（深谷秀峰議員） プラトーさとみの振興策でまだあります。先ほど質問でも言いましたけれども、グラウンド・ゴルフやフットサルの団体客の誘致、特にグラウンド・ゴルフについては、議会報告会でも市民の方から意見が出されたものであります。高齢者が対象なので、当然平日でも可能なわけですから、休日以外は利用者が少ないプラトーさとみの現状を考えれば大変有効な手段だと思います。

問題は、ある程度平坦な場所を確保しなければならないということです。先ほど質問でも言いましたが、青雲荘跡地は今、ほかの事業者に貸し付けているということで、やはり場所の確保がクリアできなければどうしようもありませんけれども、この点今後どのように考えていくのかお聞きいたします。

○川又照雄副議長 産業部長。

○樫村浩治産業部長 先ほど答弁させていただきましたように、現在、青雲荘跡地につきましては、茨城県酪農農業協同組合の共同模範牧場の採草地として貸し付けをしております。

先ほど議員からご提案のございました特にグラウンド・ゴルフにつきましては、あの辺全体を見ましても平坦なところとなるとやはりこの土地しかない。かといってほかのところを平らにということはなかなか難しいわけでございますので、やはりご提案のとおり青雲荘跡地が一番考えやすい場所かなと承知しております。

しかしながら、現在貸し付けしている状況でございますので、今後このプラトーさとみの振興をさらに図っていくためにも有効な土地であるということは承知しておりますことから、貸し付けをしております共同模範牧場ともさらに協議を進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○川又照雄副議長 深谷議員。

○10番（深谷秀峰議員） プラトーさとみでは、あと一つクリアしなければならないものがあります。これはオープン当初よりずっと言われてきたことです。冬期間の営業です。春から秋までは多くの観光客が訪れる反面、冬になるとそれがばたっととまってしまう。これはオープン当初から指摘されてきたことです。こういう期間こそ、逆に言えば大学などの長期合宿が可能にな

るわけですから、ぜひとも検討していただきたいと思います。

もう一つ、プラトーさとみの冬ならではのものがあります。それは牧場の澄んだ空気がもたらす満天の星空です。このすばらしい星空を求めてあの場合に来る人も決して少なくありません。こうした活用法も十分考えられると思いますが、現時点での考えをお聞きしたいと思います。

○川又照雄副議長 産業部長。

○樫村浩治産業部長 お答えいたします。議員ご発言のとおり、冬季の営業につきましてはこれまでも課題となっております。道路等につきましては、近隣の事業者、それから町会の方にもご協力いただきながら除雪をしておりますけれども、冬場ということもございまして、残念ながらおいでいただくお客様は少ないという状況もございます。しかしながら、今ご発言のありました満天の星、特に望遠鏡を使って、冬の星空は最高のものだとお客様からも好評を得ておりますことから、こういったことを売りにした新たな誘客に努めてまいりたいと考えております。

また、先ほどもご答弁させていただきましたが、やはりこの期間、大学とかいろいろなサークル等へも周知をして、特に冬場の営業の促進に向けた活動を進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○川又照雄副議長 深谷議員。

○10番（深谷秀峰議員） プラトーさとみはオープンから既に20年以上がたちました。オープン当初から里美ふるさと振興公社に管理委託をして、現在も指定管理者制度を利用して行っているものです。しかしまだまだ行政のサポートは必要だと思います。どうぞこれからも十分なサポートをお願いしたいと思います。

それでは、最後に消防団の組織充実について再質問いたします。消防団の話になるとどうしても長くなりがちなので手短かにやらせていただきます。機能別消防団員の確保であります。当初予定の20人が現時点で5名の入団ということで、なかなか入団が確保できない理由は何でしょう。

○川又照雄副議長 消防長。

○福地壽之消防長 お答えする前に、先ほどの答弁で訂正をお願いいたします。機能別消防団員、金砂郷地区、水府地区おのおの1名、里美地区4名、計6名でございます。先ほど5名と申しましたが訂正をお願いいたします。

機能別消防団員につきましては、その分団の中でOBの方をお願いをするということで、各分団長さんにそれぞれお話をしております。その中で、各分団の中の実情等もありまして、先日言われましたのは、5名ほど頼んで全部断られて次に頼むのはもう嫌になってきたよという話も聞いております。そういった中で、地元の方に頑張ってくださいのと私どもがバックアップするのと両方あわせてやっていきたいと思っております。ですから、分団の実情というのはかなり大きなウエートを占めていると思います。

○川又照雄副議長 深谷議員。

○10番（深谷秀峰議員） 実は機能別消防団員の制度が始まったときに、私はひそかに思いました、また消防服を着られるのかなと。ところが、やっぱり分団の事情があってまだ話は来ていませんけれども。

まず1つは、「機能別消防団員」という呼び名が私はちょっとなじみにくいネーミングだと思うんです。正式には「機能別消防団員」でも結構ですけれども、通称で一般的に呼びかける場合は「OB団員」で私はいいかと思うんですよ。そのほうが受けるほうも受けやすいような気がします。ですから、そういうPR面での名称の使い方もひと工夫必要かなと思います。

あと一つ、OB団員の役割が私は非常に曖昧だと思うんです。OB団員で年齢もいつていますから、現場から離れて期間もたっています。今の火災現場に行ってもすぐに活動できるかという、正直私は自信がありません。OB団員は災害活動に限定するといっても、最先端の災害活動は私は無理だと思うんです。ですからもっと役割を明記した上で勧誘を図るほうが、よりわかりやすいのかなと思いますがいかがでしょう。

○川又照雄副議長 答弁を求めます。消防長。

○福地壽之消防長 先ほどお話いただきました機能別消防団という呼び名につきましては、この条例を作るときに深谷渉議員のほうからわかりにくいのではないかなというご意見が出まして、募集の中には（OB団員）というような形にさせていただいております。

また、先ほど申されました災害現場の最前線で、消防ポンプ車も変わっているところもありますし、使えないというようなお話もありました。これにつきましてはもすぐに使える方もいますし、入るOB団員によって違いますので、そのところは申しわけないですけれども、各分団の実情に合わせて訓練等もやっていただくというような形をお願いしております。

また、集まり等も出てきてもらいたいという団につきましては、それは分団の中でやっていただくというような形でお任せしているような状態でございます。

○川又照雄副議長 深谷議員。

○10番（深谷秀峰議員） 最後にもう一点だけ。OB団員を勧誘しなければならない分団というのは、欠員が生じているから勧誘するわけです。そうすると一般団員の勧誘もしなければならない、OB団員も勧誘しなければならない、当然その分団の分団長を初めとした役員の負担というのは大きいんじゃないですかね。もっと本部のほうで勧誘しやすいようなPR方法、それをぜひとも検討していただきたいと思いますがいかがでしょう。

○川又照雄副議長 消防長。

○福地壽之消防長 消防団員の勧誘につきましては、私どものほうで先ほど申しましたPR等をしておりまして、また、地域の町会長等にもお願いをするというような形をとりながらやっていきたいと思っております。その点、本当に地元の方には大変ご苦勞をかけているということも私どものほうで承知しております。

○川又照雄副議長 深谷議員。

○10番（深谷秀峰議員） 消防団員の欠員が満たされて機能別消防団員も十分確保できるような取り組みをぜひともお願いして私の質問を終わります。ありがとうございました。